

2020 年を終えるにあたり

2020 年は SARS-CoV-2 感染症に始まり、その終息を迎えるどころか、さらに感染の影響が増幅された状態で年の瀬を迎えることとなってしまいました。会員の皆様におかれましては、その対応と対策でご苦労されていることと思います。

経胸壁心エコー図検査は患者さんと距離を保って実施することが不可能であり接触感染予防策を要し、経食道心エコー図検査においては飛沫感染予防まで求められることから、本年 4 月に本学会より提言を出させていただきました。学会員の皆様からは提言が有用であったとの言葉を多くいただきました。当面は感染リスクが高い状態での医療行為の実施が要求される状態が続きますので、提言の内容を参考に、皆様ご自身の安全を確保しながら診療にあたっただけだと存じます。

学会の主たる事業である学術活動については、田邊一明先生が大会長を務められた第 31 回学術集会をはじめ SHD 講習会、夏期講習会、秋期講習会とすべての事業を完全 web 開催とすることを強いられました。会場に集い意見交換を通じてお互いの知見と交流を深めることはかなわず残念ではありましたが、逆に web 開催となったことで会場への移動が困難な方々の参加が可能となり、この 1 年の中で得られたものもあったと思います。この経験は、今後の学会活動の中で生かしていくことができると考えております。

世界的に見て感染者が少ないとされる日本国内でこの状況ですので、海外の学会との行き来は当然中止となりました。しかし、そのような中で American Society of Echocardiography の学術集会では web 形式で本学会とのジョイントシンポジウムが開催されました。また欧米の学会と共同執筆でガイドラインを出したり、欧米の学会から出されるガイドラインやステートメントについて当学会が endorse する（承認するという訳になりますでしょうか）ということは、これまでと変わりなく行うことができました。

2021 年の SARS-CoV-2 の感染状況がどのように推移するのか全く予測することはできませんが、2021 年も可能な手段を駆使して、学会としての活動を継続、発展させていきたいと考えております。2021 年 1 月 23 日（土）、24 日（日）に予定されている冬期講習会は完全 web 形式のため、例年より多くの方に聴講いただくことが可能な体制で開催されます。4 月 23 日（金）～25 日（日）の会期で予定しております第 32 回学術集会は、大会長である岩永史郎先生が多くの興味あるテーマをちりばめられたプログラムを準備されており、皆様の参加をお待ちしております。開催形式については SARS-CoV-2 感染状況をにらみながらの最終決定になると思いますが、どのような開催形式になろうとも、多くの方にご参加いただければと存じます。

皆様、どうぞ良いお年をお迎えください。

2020 年 12 月 24 日

日本心エコー図学会理事長

山本一博